

3月2日(月)

令和八年度 B日程入学試験問題

文学部（日本文学科・中国文学科・外国語文化学科・哲学科）、
神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、
観光まちづくり学部

現代文

—注意事項—

- 1 問題は1ページから31ページ、解答用紙は一枚である。
2 次の指示にしたがうこと。
文学部は**1**・**2**を解答すること。
神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は**1**・**3**を解答すること。
3 解答はすべて別紙解答用紙に記入すること。
4 試験時間は六〇分である。

省略

の箇所は、著作権の都合上省略しています。

1 [全学科の必須]

この問題は、解答欄 **1** ～ **14** に解答すること。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(50点)

省 略

省 略

省 略

省 略

省 略

(姜竣氏の文章に基づく)

(注) ○水木しげる―日本を代表するマンガ家の一人。『鬼太郎』『河童の三平』等、妖怪を題材としたマンガを著した。

○のんのんばあ―幼少時の水木しげるに妖怪の伝承を語り聞かせた、近所の信心深い老婆。

○柳田國男―日本民俗学を確立した思想家・社会活動家。妖怪の研究にも着手した。

○貸本マンガ―代金を取って書籍を貸し出す「貸本屋」でのみ流通したマンガ本。

○奇(鬼)太郎―水木しげるのマンガキャラクター「鬼太郎」と、そのもととなった紙芝居の人気キャラクター「奇太郎」をまとめて指す呼び方。

問一 二重傍線部(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)の意味として最もふさわしいものを、次のア〜オの中からそれぞれ一つ選び、(1)は解答欄

1 に、(2)は 2 に、(3)は 3 に、(4)は 4 に、(5)は 5 に、(6)は 6 にマークしなさい。

- (1)
- | | | | | | |
|---|--------|--------|---------|---------|--------|
| 1 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | 正しいところ | 思わぬところ | 本質的なところ | 見えないところ | いたるところ |
- (2)
- | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|
| 2 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | 奮発 | 開発 | 告発 | 誘発 | 挑発 |
- (3)
- | | | | | | |
|---|----------------|---------------|---------------|--------------|--------------|
| 3 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | つたない字で失礼申し上げます | 謹んで文書にて申し上げます | いち早くご報告申し上げます | 簡単に文章で申し上げます | 祝辞をお送り申し上げます |

- (4)
- | | | | | | |
|---|----------------------|--------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 4 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | 自分自身の中で前後の言行が一致しないこと | 自らの欲望に執心して思いきれないこと | 自己嫌悪の状態に固着してしまふこと | 自身の意に反して成長を拒み続けること | 自我を否定して抑圧的にふるまふこと |
- (5)
- | | | | | | |
|---|-----|-------|-------|------|-------|
| 5 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | 諦める | 自明とする | 第一とする | 封印する | 結論とする |
- (6)
- | | | | | | |
|---|------|-------|-------|------|--------|
| 6 | オ | イ | ウ | エ | ア |
| | 狭い見識 | 多くの知識 | 公的な記録 | 先行研究 | 徹底した搜索 |

問二 空欄 I・II・III に入る最もふさわしい語を次のア〜ケの中からそれぞれ一つ選び、I は解答欄

- 7 には、II は 8 には、III は 9 にマークしなさい。
- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|---------|---|------|
| ア | なかならず | イ | ひいては | ウ | あるいは | エ | にもかかわらず | オ | 必ずしも |
| カ | なるほど | キ | ときに | ク | とりわけ | ケ | かえって | | |

問三 傍線部 (a) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

ア 聴覚イメージを視覚化して妖怪を「形」として表現した絵と、オノマトベという「音声」の記号としてある妖怪の名前とは恣意的な結びつきしかないうえ、水木は作品において妖怪の名前という「音声」を見出しにイワレを解説する際、柳田がこだわりをもっていた妖怪の名前と鳴き声の関係には注目せず、もっぱら「音声」としての名前のみを強調して画像化してしまっているから。

イ 描くことにより「形」としてあらわされている妖怪の絵は、そのもととなった「音声」である名前という記号から離れて自由に描かれているうえ、水木は妖怪の名前を柳田の『妖怪談義』を参照してマンガにしたに過ぎないため、水木の描く妖怪はその名前が「音声」としてあったという実感を欠いているから。

ウ マンガ表現として絵という「形」を与えられた妖怪は、もともと「音声」としての名前を記号としてのみもつ存在でしかなかったうえ、水木は「音声」にこだわる柳田の議論では一顧だにされていないなかった妖怪の記述から水木自身の発想をふくらませて視覚化し、柳田には思いもよらない「形」を創造してしまったから。

エ 妖怪の存在感を視覚化して「形」とした妖怪の絵と、水木がのんのんばあから豊かな「音声」として伝授された妖怪の名前という記号は時代も地域もまったく異なるうえ、水木が耽読した柳田の書物においては妖怪の聴覚イメージを問題にしているが、水木は名前を単なる「音声」として視覚イメージに用いなかったから。

オ 視覚化された「形」として存在する妖怪の絵と、記号として付与された「音声」である妖怪の名前との間には本質的な結びつきは存在しないうえ、妖怪の名前が「音声」であったことについて柳田ほどには注意を払っていないため、水木は画像化した妖怪にその名前が本来「音声」であったことを反映できていないから。

問四 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 11 にマークしなさい。

ア 我々は最初から意味のない鳥の鳴き声にすらも〈ことば〉の意味を想像してしまうので、初めから想像の中にしかない妖怪のあげる声は、必ずしも対象と結びついた意味をもつ〈ことば〉であるとは限らないということ。

イ 我々は鳥の鳴き声という本来雑音に過ぎない自然音に〈ことば〉としての意味を読んではしまうのだから、人間が想像力で作りだした妖怪の出す声には、より価値の高い意味をもった〈ことば〉が選ばれるということ。

ウ 我々は鳥の鳴き声のような環境音にすら意味のある〈ことば〉を見出すのだから、ましてや人間が想像の中で生み出した妖怪の声は、もともと意味のない音であつてもそこに〈ことば〉としての意味がもたされてしまうということ。

エ 我々は本来意味をもたない自然音である鳥の鳴き声にすら意味のある〈ことば〉を認めてしまうのだから、人間の想像の中にしかない妖怪の放つ声も、当然〈ことば〉としての意味をもたされたものとなるということ。

オ 我々は自然に暮らす鳥の鳴き声までも教訓的な意味をもつ〈ことば〉として聞いてしまうので、人間が想像した妖怪の鳴き声には、さなる社会的な意味をもつ〈ことば〉が選り取られてしかるべきだということ。

問五 傍線部 (c) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

ア 近代日本において文芸Ⅱ文字の発想をもとにした普遍的な共通語の使用が広げられていることに対抗して、口承Ⅱ音声に立脚する固有性をもつ地方語をあえて使用することにより、具体的な身体感覚を反映した〈ことば〉の使用を取り戻そうとする姿勢。

イ 文芸Ⅱ文字の発想をもとにした文芸以外の文芸を超越する普遍的な共通語の使用が広がる近代日本の時勢に対抗して、地方語の視覚イメージに立脚する口承Ⅱ音声をあえて使うことにより、身体にふさわしい名付けという〈ことば〉を取り戻そうとする姿勢。

ウ 普遍性をもつた近代の成立のため文芸Ⅱ文字の発想をもとにした共通語の使用を広める日本人に対抗して、口承Ⅱ音声の名づけの視線によって認識される地方語をあえて使用することにより、はじめて近代を成立させていく〈ことば〉を取り戻そうとする姿勢。

エ 共通語という文芸Ⅱ文字の発想をもとにした普遍的な言語が近代日本において用意されていることに対抗して、身体から奪われた口承Ⅱ音声を含む地方語をあえて使うことにより、擬声語や擬態語の〈ことば〉に彩られた前代の生活感覚を取り戻そうとする姿勢。

オ 本源的な矛盾をもつ文芸Ⅱ文字の発想をもとにした共通語の使用を広げつつある近代日本社会に対抗して、口承Ⅱ音声の土着性に自覚的な地方語をあえて使うことにより、世界を体の反映である鏡として発見する〈ことば〉の力を取り戻そうとする姿勢。

問六 傍線部(d)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

ア 「コケカキイキイ」は、テキスト①では母の死後に墓地で生まれた異形の子どもという「奇(鬼)太郎」と同じ〈意味〉をもつキャラクターとして創造され、〈音〉と〈意味〉に関連はなかったが、後続のテキスト②において半人半鶏の異形に再創造されて〈音〉と〈意味〉が近接し、テキスト③において鶏冠や嘴をもつ異形の子どもが墓地で母の幽霊に「カカ」と語りかけるに至って、名前とキャラクターとが一つのものとなったということ。

イ 「コケカキイキイ」は、テキスト①では母と死に別れて孤独に生きる悲劇的な子どもという「奇(鬼)太郎」と同じ〈意味〉をもつキャラクターとして描かれ、〈音〉と〈意味〉とは無関係だが、後続のテキスト②においては鶏冠とニワトリの足をもつことで〈音〉が〈意味〉をもつようになり、テキスト③において半人半鶏の子どもが母親の幽霊と再会を果たし「カカ」と呼びかけるに至って、ストーリーが一つの流れをもって完結したということ。

ウ 「コケカキイキイ」は、テキスト①では、不気味な子どもという「奇(鬼)太郎」と同じ〈意味〉をもつキャラクターとして登場し、〈音〉と〈意味〉の関連は薄かったが、後続のテキスト②においては悪人の医者・猫婆にニワトリと合体させられることで〈音〉と〈意味〉とに関連が生じ、テキスト③において悪人に復讐を果たして「ケケ：／カカ：」というオノマトペで快哉の声を上げるに至って、〈音〉と〈意味〉とが重なり合ったということ。

エ 「コケカキイキイ」は、テキスト①では神戸で作られた戦後の紙芝居の主人公という「奇(鬼)太郎」と同じ〈意味〉をもつキャラクターとして認知されていたが、〈音〉と〈意味〉とに明確な繋がりはなかったが、後続のテキスト②においては舞台を大阪としてニワトリという要素が取り入れられ〈音〉と〈意味〉とが連携し、テキスト③において東京の墓場で母の幽霊に「ケケカカ」と半鶏の小僧が歌うに至り〈音〉と〈意味〉とが止揚されたということ。

オ 「コケカキイキイ」は、テキスト①では墓場で暮らす二本の出っ歯をもつ子どもという「奇(鬼)太郎」と同じ〈意味〉をもつキャラクターにすぎず、〈音〉と〈意味〉とがすれ違っていたが、後続のテキスト②において香港の見世物小屋で「コケカ」と鳴くとり小僧となつて〈音〉と〈意味〉が連想によって結ばれ、テキスト③において半人半鶏の子どもが墓場で母に向けて「カカ」と鳴くに至って、〈音〉に〈意味〉が解消されたということ。

問七 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア〜カの中から二つ選び、解答欄 14 に二つマークしなさい。

ア マンガ作品においてオノマトペは表現上不可欠であり、もともと絵に接近した文字である。絵の中のオノマトペは主に登場人物の名前である場合が多い。水木しげるが発表したマンガの題名の多くには、作中に登場する妖怪の名前が含まれているが、その名前には擬声語が使われることが少ないという特徴を指摘しうる。一九六〇年から一九六八年に描かれた「鬼太郎」作品二百五十件中、擬声語の妖怪名は「けらけら女」「こそこそ岩」程度のものしか見当たらない。

イ 水木しげるがマンガの資料を求めて神田の古本屋街で偶然出会った書物が柳田國男の『妖怪談義』だった。水木が柳田を参照したであろうことは、たとえば、「鬼太郎」作品に柳田の「妖怪名彙」に記述される妖怪の名前や性質、出身地の情報が引用されるなど、水木のマンガに証拠を求めることができる。「のんのんばあ」から伝えられた豊かな視覚イメージを出発点として、水木は柳田の書物には欠けていた妖怪の「形」を自ら創造し、かつての日本人が目撃してきた「存在感のあるもの」を視覚化することに成功した。

ウ 柳田國男はフランス語の学術用語を参考に「口承／文芸」という矛盾した語を造語した。文字で書いたものという意味を含んでいる文芸と、口から耳へと伝えられる音声の口承の組み合わせは、「文芸」以外の文芸への気づき、発見を目的とした、人の目を引くための斬新な命名法であった。柳田は〈ことば〉が単にそれが指し示す〈もの〉の記号表現ではなく、音声そのものの力をもっていることに自覚的であったがため、擬声語や擬態語を含みこんだ地方語と超越的な共通語の矛盾に取り組むこととなった。

エ 水木しげるが『妖怪画談』で描いた「小豆洗い」は、柳田國男の『妖怪談義』の記述をほぼそのまま引用して絵としている。川のほとり「シヨキシヨキ」と小豆を洗うような音を立てる音響の怪であることも水木は、「小豆さらさら」と呼ぶ地方があることを言い添えることによって補完している。そうした水木作品には珍しく擬声語らしき名前をもつ妖怪が「コケカキイキイ」である。『妖怪談義』によれば「コケカキイキイ」は、「コケカキイキイ」と聞こえる鳴き声なり物音から名付けられた名前である。

オ 水木しげるの描いた「コケカキイキイ」は、不運な老婆と赤子と猫と蚤が死の寸前に「神秘的な結合」をして生まれた生命体とされている。水木は「コケカキイキイ」の画像を複数の生命の「神秘的な結合」という〈意味〉から生物学的知識を経由して、異なる生物が集合して一つの群体となるカツオエボシ（電気クラゲ）に結びつけて視覚化した。そのため水木の「コケカキイキイ」は自身の名≡音声とは断絶したキャラクターとなつてしまったため、音声でのコミュニケーションに不全をきたすこととなった。

カ 「コケカキイキイ」は水木しげるのマンガに先行して、戦後の街頭紙芝居で人気となつていたキャラクターであった。西日本では「コケカキイキイ」を記憶している人もあったことは、福岡のテレビ番組や地方新聞が「コケカキイキイ」の紙芝居を探す企画を行なったこ

とからも推測できる。「コケカキイキイ」の現存するテキストとして、一九五〇年代の街頭紙芝居や一九六〇年前後の貸本マンガ、一九七〇年代の水木のマンガのほか、二〇〇〇年代のマンガ作品が存在していることから、その人気がうかがえる。

2

〔文学部の**必須**。神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答しないこと〕
この問題は、解答欄 **21** ～ **36** に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

省 略

省 略

省 略

省 略

省 略

省 略

省 略

(注)

- アルカイック―原初的。
- エントロピー―無秩序。
- ジル・ド・レ―十五世紀フランスの貴族。数々の残虐行為により処刑された。
- カタストロフ―破滅。
- ダイナミズム―力強さ。
- コンテキスト―文脈。
- 「放縦な王」―道化が演じる偽王。
- スケープゴート―いけにえ。
- コスモス―秩序ある宇宙。
- カオス―混沌。
- ノモス―秩序。
- オイディプス―ギリシャ神話の登場人物。実父を殺し、実母を妻にしたが、その罪に苦しむことになる。

問一 二重傍線部 (1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6) の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(1)は解答欄 21 に、(2)は 22 に、(3)は 23 に、(4)は 24 に、(5)は 25 に、(6)は 26 にマークしなさい。

(1) 21
 ア 過激に
 イ 大胆に
 ウ 拙速に
 エ 露骨に
 オ 愚直に

(2) 22
 ア なんとなく
 イ それとなく
 ウ しかたなく
 エ つつみなく
 オ おしみなく

(3) 23
 ア 頼りない男
 イ 頼りになる男
 ウ だらしない男
 エ お尋ね者の男
 オ ならず者の男

(4) 24
 ア 不可逆に
 イ 不可能に
 ウ 不可避に
 エ 不可欠に
 オ 不可分に

(5) 25
 ア お告げ
 イ お導き
 ウ お計らい
 エ お墨付き
 オ お膳立て

(6) 26
 ア 裏表の無さ
 イ 計算の無さ
 ウ 性格のよさ
 エ 要領のよさ
 オ 感覚の鋭さ

問二 空欄 I に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

ア すくない イ まかせの ウ さかな エ すすんだ オ はずれた

問三 空欄 II に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 28 にマークしなさい。

ア つかない イ やぶれた ウ はずれた エ すくない オ さかな

問四 空欄 III に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 29 にマークしなさい。

ア 身につけ イ はがされ ウ 着せられ エ まかされ オ 引き受け

問五 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 30 にマークしなさい。

ア 戦士Ⅱ貴族という輝かしい外面を持つジル・ド・レと、不透明であいまいな光源氏との違い。

イ 潜在的な構造をおおってしまう表層構造と、表層構造に浸透して破壊する深層構造との違い。

ウ 激しい闘争があつた中世のヨーロッパと、調和に基礎を置いていた平安時代の日本との違い。

エ 歴史上実在した狂暴な人物ジル・ド・レと、永遠に破滅しない想像上の人物光源氏との違い。

オ 急激かつ完全に破滅したジル・ド・レと、少しずつ破滅へと導かれていった光源氏との違い。

問六 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 31 にマークしなさい。

ア 天皇の子でありながら王権秩序を乱す役割と、天皇の父として王権秩序を守る役割という、対照的な二つの立場。

イ 権力者としての精神的・肉体的な力強さと、文化のシステムを活性化させる力強さという、対照的な二つの威力。

ウ プラスの過剰さを具現する天皇のタイプと、マイナスの過剰さを持つ息子のタイプという、対照的な二つの類型。

エ 准太上天皇と廢皇子という矛盾した立場と、それに折り合いをつける合理的な態度という、対照的な二つの側面。

オ 天皇の地位に立つて秩序を維持していた可能性と、その秩序を侵犯する方向に進むという、対照的な二つの方向。

問七 傍線部(c)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 32 にマークしなさい。

ア 否定されなければならないような悪行であっても、それを神聖な行為として読み替えることで王権の絶対性を示すという完全なる混沌の力による支え。

イ 秩序から逸脱するような良からぬ行為でさえも、王権の卓越性を示す過剰な力の表れとして肯定的な意味を与えられるという神話的な論理による支え。

ウ 現実の歴史的世界では悪とされることも、天上においてはどちらとも言えない両義的なものによって変わってしまうという宇宙規模のメカニズムによる支え。

エ あらゆる悪行が混沌の力に起因するものとして正当化され、それらがみな王になるために必要な経験として評価されるという両義的な論理による支え。

オ たとえ否定的な行為を行ったとしても、それらをすべて宇宙的意義のある個人的な行為に変換して、罪人を聖人にするという記号システムによる支え。

問八 傍線部(d)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 33 にマークしなさい。

ア 異常出生譚 イ 難題求婚譚 ウ 天人女房譚 エ 末子繁栄譚 オ 貴種流離譚

問九 傍線部 (e) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 34 にマークしなさい。

ア 皇位継承の有力候補として周囲から認められていた大津皇子とは違って、光源氏は桐壺帝から継承者として認められなかったため、結局は天皇になることができずに生涯を終えることになったから。

イ 光源氏は弘徽殿女御と対立したことで政治生命を失うほどの危機を迎えたが、それを個人的な情事と言い逃れることによって、大津皇子の場合とは違って深刻な対立を回避することに成功したから。

ウ 光源氏は物腰やわらかく争いを避けつづけた結果、まったく政治的影響力を持たないまま生涯を終えたが、大津皇子は政治的な能力が高すぎたために最後は謀反を起こすことになってしまったから。

エ 大津皇子は草壁皇子を脅かすほどの政治的影響力を保持していたために結局は刑死してしまったが、光源氏は臣籍に降下して皇位継承の争いから離脱したことによって生き延びることができたから。

オ 草壁皇子は大津皇子の脅威によって政治生命を絶たれてしまったが、光源氏は競争相手である異母弟との関係を良好に保ったことによつて長らく政治的な影響力を維持しつづけることができたから。

問十 傍線部 (f) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 35 にマークしなさい。

ア 光源氏の邸宅である六条院は、源融という皇位継承に敗れた周縁的な皇子の邸宅を模して造られているから、必然的に周縁性を帯びてしまうということ。

イ 河原院も六条院も都の中心部からは外れた周縁部に位置しており、その地理的な環境が天皇という中心に対する皇子の周縁性を象徴しているということ。

ウ 四季を表す四区画という宇宙論的秩序を具現化した六条院は王権の宇宙そのものであるから、中心と周縁が入れ替わっていてもおかしくないということ。

エ 宮中は都の中心に位置して天皇権力を象徴する空間だが、それに対して周縁的な存在である皇子の邸宅である河原院や六条院はみずほらしいということ。

オ 皇子の邸宅であっても宮中と同じ機能を持つ六条院は天皇と対等な権力を表象しているから、周縁的存在である偽王が真の王に入れ替わったということ。

問十一 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～ケの中から二つを選び、解答欄 36 に二つマークしなさい。

- ア 祝祭空間においては偽王や道化といった周縁的な存在が秩序の中心を支配することがあるが、すぐに追放されることになる。
- イ 政治空間における理想的な王は、生活空間においては遊戯的であったり暴力的であったりするような余剰的な存在である。
- ウ 光源氏は河原院の四つの区画に四季それぞれのイメージに合った女性たちを住まわせ、理想的な王宮の空間を作ろうとした。
- エ 光源氏は北山の地で孤独で禁欲的な生活を送っている聖に会って出家をしたが、すぐに藤壺のもとへと再び戻ってしまう。
- オ 源氏物語は平安王朝の政治や社会や生活を現実に描いており、神話や伝奇的な物語の伝統を乗り越えた新しい文学となった。
- カ 源氏物語は何千もの読者のひそかな退行願望を実現し、現実社会の中にある無秩序で混沌とした暗闇の世界へと誘導している。
- キ 過剰さを体現している光源氏は、神話的な構造において潜在的な王であると同時に、潜在的なスケープゴートでもあった。
- ク 素戔嗚尊と光源氏はともに社会の規範に順応することを拒否し、母の胎内へと回帰しようとして暴力的な行動をとろうとした。
- ケ 平安時代の都はすでに荒廃していたので、光源氏が都の周縁に住むことは荒野や荒地を放浪する行為に等しい意味があった。

3

〔神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部の**必須**。文学部は解答しないこと〕
この問題は、解答欄 **41** ～ **50** に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

省 略

省 略

(注) ○クリシエー決まり文句、常套句。

省 略

(岡崎乾二郎氏の文章に基づく)

問三 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 46 にマークしなさい。

ア 「花の本体」とは名辞にはかならないため、知覚しようとしても不可能である。そもそも知覚とは認識であり、反省的な心の動きなどしなくても匂いや色がわかればそれで充分である。よって、匂いや色がわかれば「花の本体」に知覚は不要であるということ。

イ 「花の本体」は知覚される姿かたちを持たず、あくまでも私たちが想像しかできない理想的な美の認識である。そもそも知覚とは、匂い、色、美しさの認知を指しているのだから、「花の本体」という想像的な美の認識とは根本的に異なっているということ。

ウ 「花の本体」とはそもそも秘すべきものであるため、たやすく明らかにはできない。匂いや色について語っても、それは認知した対象を説明しただけである。よって、匂いや色のような認知からは「花の本体」という認識には決して到達できないということ。

エ 「花の本体」は、見紛うことなく「花の本体」として認識できるはずではある。そもそも知覚とは匂いや色に関する知識に基づいた理解にはかならない。よって、「花の本体」は匂いや色の知覚とは無関係にひたすら直感的に認識されているのだということ。

オ 「花の本体」は概念的な像であるため、知覚はできない。そもそも知覚とは五感の働きであり、それによって捉えられるものは香りや色彩である。よって、「花の本体」という概念は香りや色彩といった知覚された対象を通して理解されているのだということ。

問四 傍線部 (c) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 47 にマークしなさい。

ア 本来は見えないはずのものであるにもかかわらず、文字や芸術などの姿かたちのある対象に重ね合わせられ、あたかも見えるように実感されている目では捉えられないイメージのこと。

イ 幽霊が人間ののりうつるように、漢字にも意味がのりうつっており、それは知覚できないはずだが、その姿かたちを覚えれば理解できるようにになるという漢字の原理的な仕組みのこと。

ウ 「おっかさん」などといったような本当は誰も見たことがないはずのものであったとしても、呼びかけたり語りかけたりする行為の繰り返しによって実感されてくるという錯覚のこと。

エ 象形文字のように意味が目では捉えられないイメージにすぎなかったものを、長い歴史の中で知覚可能な姿かたちへと変えていき、誰でも認知できるように整備された現代の文字のこと。

オ 絵画や音楽、身体芸術などに込められている、本来は具体性に乏しく抽象的でわかりにくい意味を、どのような人であろうと見出しやすくするために工夫された手品のような表現のこと。

問五 傍線部 (d) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 48 にマークしなさい。

ア 「風揚げ」においてもっとも重要な点は綱引きのような運動の軌跡であり、それが知覚できないまま、風自体を見て「風揚げ」と呼んでしまうことは、飛んでいる蛍の運動の軌跡を知覚せずにその姿だけで「おっかさん」と認識してしまうことと同じであるから。

イ 空気の抵抗や風の流れの理解という知識があつて初めて「風揚げ」が認識できるように、まずは魂の比喩として用いられる蛍という知識を得なければ、そこに亡くなった「おっかさん」を結び付けることはできないという知識が前提になる点では同じであるから。

ウ 風を操作する人の動きが見落とされ、風の運動ばかりから知覚されてしまう「風揚げ」と、実在している母の人生とは無関係にあくまでも蛍の運動のみから知覚される「おっかさん」とは、認識にいたる過程において見逃している部分がある点で同じであるから。

エ 風と人の運動によつて像として結ばれる「風揚げ」と、ある人が自分の前をずっと飛んでいる蛍の運動に見た「おっかさん」という像とは、目で見えて捉えられている運動の実感を、概念を見ているという実感に誤認しているという点においては同じであるから。

オ 基本的に「風揚げ」も「おっかさん」も高度に抽象的な概念であり、それ自体を実感はできないため、目で見えて捉えることが可能な運動の軌跡を目撃したという経験に、「風揚げ」や「おっかさん」という名前を付けているにすぎない点では同じであるから。

問六 傍線部 (e) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 49 にマークしなさい。

- ア 見たことがないものは描けないとあってヨーロッパでよく描かれてきた天使などの宗教画を否定するのではなく、現実では見られないような超自然的な存在や、「花」「蜚」などの題材を一般的な理解から大きく逸脱させた姿で描くことこそが「芸」であるといえるから。
- イ 世阿弥が「秘すれば花」と述べていたように、本質を明らかにしない振る舞いが「芸」であると認められるため、天使などの見たことがない存在を描けるかどうかが問題になるのではなく、見えていたとしてもそのすべてを描かないようにすることが「芸」であるから。
- ウ 能楽などで「子」や「枝」までもが「母」になりえるといったように、姿かたちが異なる対象に観念的な像を重ね合わせて演じることや、天使のような存在と等しい見たこともないイメージを知覚された情報から喚起して表現することこそが「芸」であるといえるから。
- エ 猿楽という物真似の重要な秘密は見たことがないものを見る人に想像させる演技力であるため、天使のような誰も見たことがないものは描けないというクールベの釈明は、日本人の感覚からすれば芸術家の敗北であり、そのような発想を「芸」であるとは呼べないから。
- オ 感覚与件の確かさと、頭に浮かぶ構成されたイメージの確かさとの間にはもちろん差異が生じているが、見たことがあるかないかという体験の有無ではなく、能楽などの日本の伝統芸能のように受け継がれてきた技でそれを解消することが「芸」であるといえるから。

問七 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 50 に二つマークしなさい。

ア 鏡に映っている自分を自分であると認識したときこそが「わたし」自身が生まれたといっても過言ではない瞬間であり、そのときに多くの人は自己肯定感も合わせて生じるようになる。

イ 「わたし」「花」「おっかさん」「風揚げ」は、確かにそれを見ていると思いついてしまうものではあるが、もともと姿かたちを持たない、目では捉えられない観念的なイメージである。

ウ 『花』の美しさという様なものはない」「美しい『花』がある」だけだといった小林秀雄の発言には高い説得力があり、「秘すれば花」という世阿弥の教えを理解する手掛かりになる。

エ 身近な存在に対してその姿かたちだけを借りた替え玉であると認知するようになるカプグラ症候群の解明は、同時に物真似を起源とする能楽の神髄を理解する鍵にもなる可能性がある。

オ イメージというものは知覚された情報が引き寄せてくる像であり、この見えないはずの何ものかⅡ像は、個々人の時間からも空間からもかなり隔たったところから訪れるものである。

カ 目や耳や舌先などで知覚される情報は、文学などの表現によって出現させられているのではなく、常にそれを認識した人の実体験に基づいた確信によって生み出されるものにすぎない。

